

# 下水管300キロに陥没リスク

## 国交省600キロ調査分 腐食や破損発見

埼玉県八潮市で1月に起きた道路陥没事故を受け、国土交通省が全国の古くて大きい下水管を調べたところ、計300キロメートルで陥没につながるリスクがあることがわかった。調査結果が出たうちの約半分にあたる。腐食やたるみ、破損などの不具合が見つかったという。国交省が17日、事故の再発防止策などを検討する有識者委員会で報告した。▼29面見逃された老朽化

国交省は3月から、直別重点調査を実施している。目視やテレビカメラを使い「腐食」「たるみ」「破損」の3項目に

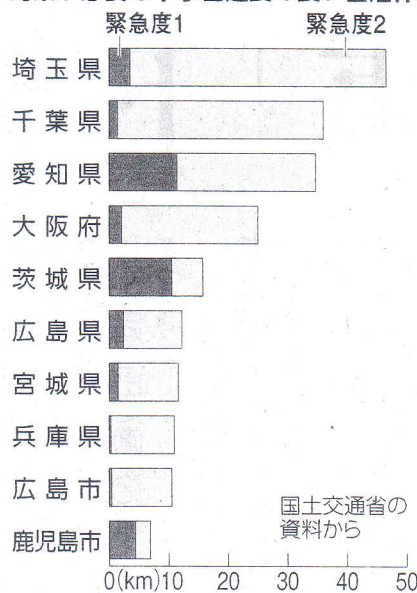
ついて、劣化が進んだ方から順にA〜Cの3ランクでそれぞれを評価。一つでもAがある場合は原則1年以内に速やかな対策が必要な「緊急度1」、一つでもBがある場合は応急措置をした上で5年以内に対策が必要な「緊急度2」と判定する。

5キロのうち、八潮市の現場と似た地盤に敷設されている▽高低差があるなど管路が腐食しやすい▽過去に陥没があったり腐食が確認されたりした――箇所など約810キロを優先的に調べており、この日は先に調査が終わった621キロ分の状



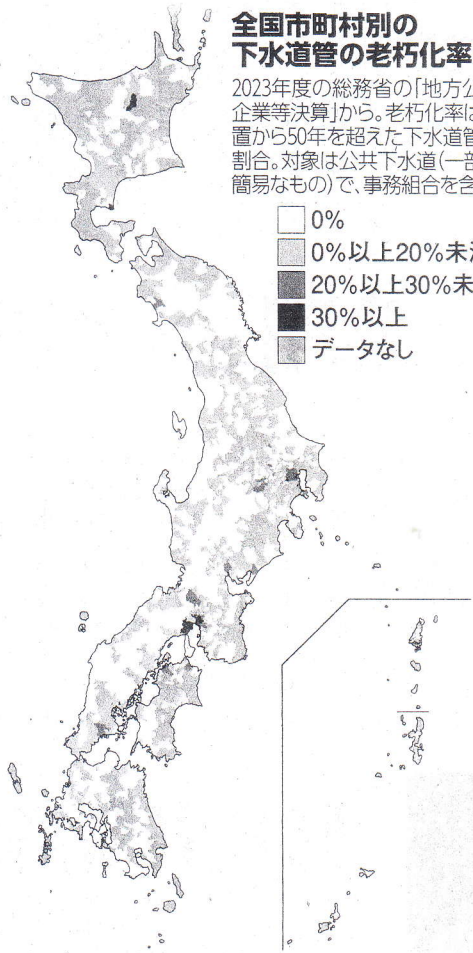
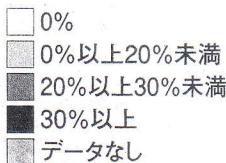
陥没事故が起きてから3日後の現場の様子▽1月31日、埼玉県八潮市、本社へりから

### 対策が必要な下水管延長の長い自治体



### 全国市町村別の下水道管の老朽化率

2023年度の総務省の「地方公営企業等決算」から、老朽化率は設置から50年を超えた下水道管の割合。対象は公共下水道(一部は簡易なもの)、事務組合を含む



況を国交省が報告した。それによると、対策が必要な不具合が見つかった管路は計297キロで、結果が出たうちの48%にのぼった。このうち71自治体が管理する72キロが緊急度1と判定され、残りの225キロは緊急度2だった。緊急度1の管路が長かったのは、愛知県管理の11・4キロ、茨城県10・5キロ、大阪府守口市4・7キロなどだった。国交省が、腐食しやすい管路約3500キロを対象に5年かけて実施していたこれまでの法定点検では、緊急度2はBが一つの場合は当てはまらなかった。陥没があった八潮市の下水管では、埼玉県による3年前の独自の点検で腐食についてのみBだったため、ただちに対策が必要な状況ではないと判断された。今回の調査では判定基準が見直されていた。(費川俊)

こちらのQRコードから、市町村別の下水道管の老朽化率がご覧になれます